

就労支援ワーキンググループ 主な意見一覧

受領日	No.	委員(敬称略)	意見	事務局での対応等
8月5日	1	河原 山内	資料3 p4 ・院内ルールというのが、誰がいつ、そしてその後どのようにフォローしていくか、そういうことが盛り込まれた方がよい。 ・例えば、医師が必ず確認することを推奨するとか、通達を全員に出すとか具体的な例をいくつか挙げていただく。	・御意見のとおり修正
8月5日	2	山内	資料3 p5 ・段落の順番を変えたほうがよいではないか。病気だから就労が無理と考える人が多い事実を先に	・御意見のとおり修正
8月5日	3	佐柳	資料3 p5 ・0～Ⅱ期の患者でも、治療に専念するとか、継続して就労することが困難だと思った方が半分くらいいる。 ・早期にがんが発見されても離職する割合を入れることも重要	・0～Ⅱ期患者の「治療・療養に専念する必要があると思ったため」「体力面等から継続して就労することが困難であると思ったため」の数値も追記
8月5日	4	山内	資料3 全体 ・図表に対象を記載したほうがよい。	・御意見のとおり修正
8月5日	5	朝日	資料3 p13 ・5段落目の「特に規模の小さい企業では、主治医からの情報を参考にしている傾向」とあったが、図表159(参考資料2:117ページ)と読み取りが異なる。	・データから読み取れる文言に正しく修正
8月5日	6	角田	資料3 p15 ・産業保健スタッフからの助言は全体で26.1%で、特に50人以下のところ少ない。 (これは、専属の義務がないためかもしれない、ということの明記)	・左記のことを<考察>へ追記

就労支援ワーキンググループ 主な意見一覧

受領日	No.	委員(敬称略)	意見	事務局での対応等
8月5日	7	山内 内田	資料3 p18 (「全ての就労している患者に対して働きやすさを踏まえて治療方針を決めている」という言い方について) ・主治医は、働いている人となりを見てやっているが、標準治療を受けていただくことがあります ・主治医の判断に任せていて、配慮していないみたいなことになる。	・御意見を受け、『「全ての就労している患者に対して働きやすさを踏まえて治療方針を決めている」のはわずか1施設に留まるなど』を削除
8月5日	8	佐柳	資料3 p22 ・「誰に相談してよいかわからなかった／わからないから」2.6%という大きくない数値を取り上げるのに違和	・御意見を受け、グラフから破線の囲みを取り、＜調査結果のまとめ＞からも文言を削除した。
8月5日	9	内田	資料3 p29 ・患者に出す診断書は、あまり患者の不利益になることを会社に伝えたくない現状があるので、わざと正確に書かなかったり、あるいは、長期的な見通しもかけなかったりというのがあるので、企業側のニーズと病院側の情報提供のギャップがある。	・御意見として承り、今後の施策に繋げていく。
8月5日	10	朝日	— ・(がんの従業員に対し)本当に何をしたらいいかわからないというところが1番。その辺の中小企業に対しての周知、産業医もいない中で、どうやって患者から情報をとってきて、企業として対応するのが必要	・御意見として承り、今後の施策に繋げていく。

就労支援ワーキンググループ 主な意見一覧

受領日	No.	委員(敬称略)	意見	事務局での対応等
9月13日	11	佐柳	<p>資料4 ②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まだ取り組みが、これからの企業においては、そもそも企業での就労支援が必要となる背景(がん罹患者の3人に1人は就労年齢でがんに罹患すること)や、がんの正しい知識(必ずしも仕事と両立できない病気ではなくなりつつあることなど)をしっかりと伝えていくことが、企業内で取り組みを進めていく、自社ごと化する上でのポイントになると思う。 ・また、これを社内でも啓発、共通理解とすることで、罹患した社員に対して、人事や職場上司が適切にサポートしていく風土醸成にも繋がると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・御意見として承り、今後の施策に繋げていく。
9月13日	12	角田	<p>資料4 ③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療機関を通じて正しい知識を啓発(リーフレット・ポスター等)に、それだけでなく『がんポータルサイトなど、ネット等でアクセスできる媒体による知識の啓発』も追加しては 	<ul style="list-style-type: none"> ・御意見のとおり、加筆修正済み